

一般社団法人 日本鉱物科学会
2024 年度 定時社員総会 議事録

【1】 **開催日時:** 2025 年 9 月 11 日(木) 9 時 00 分~10 時 15 分

【2】 **開催場所:** 山口大学吉田キャンパス 共通教育棟 1 番教室
〒753-0841 山口県山口市吉田 1 6 7 7

【3】 **出席役員:** 21 名

会 長：井上 徹

副会長：中村 美千彦

理 事：秋澤 紀克，安東 淳一，大藤 弘明，鍵 裕之，片山 郁夫，
黒澤 正紀，佐久間 博，瀬戸 雄介，DAS Kaushik (ダス カウシク)，辻森 樹，
土屋 旬，富岡 尚敬，三河内 岳，森下 知晃，芳川 雅子 (柴田雅子)，河上 哲生
M. Satish-Kumar (マドスーダン・サティッシュ・クマール)，永嶋 真理子，栗林 貴弘

監事: 永井隆哉

【4】 **議長:** 中野 伸彦 理事

【5】 **議事録作成者:** 小松 一生 副庶務幹事

【6】 **報告事項**

I. 2024 年度 (一般社団法人第 9 期) 事業報告

(学会誌等発行事業，集会及び行事の開催事業，研究の奨励及び業績の表彰，学会諸事業)

II. 2025 年度 (一般社団法人第 10 期) 事業計画書及び収支予算などの件

III. その他

【7】 **決議事項**

I. 第 1 号議案 2024 年度 (一般社団法人第 9 期) 事業報告承認，決算承認の件

【8】 **授賞式**

一，日本鉱物科学会賞授与

一，渡邊萬次郎賞授与

一，日本鉱物科学会論文賞授与

一，日本鉱物科学会研究奨励賞授与

一，日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与

一，櫻井賞授与

一，JMPS 学生論文賞授与

【9】 議事の経過の要領及びその結果

- (1) 議長選出：定刻に至り、一般社団法人日本鉱物科学会井上徹会長が、定款第 15 条により議長の選任について諮ったところ、中野 伸彦 理事の推薦があり、満場一致をもって議長に選出された。
- (2) 開会宣言：中野議長が、本総会は現地開催を主として、テレビ会議システム(ZOOM：ズーム)を併用して開催する旨を述べ、社員(当法人の正会員又は名誉会員)のうち ZOOM を使用してのオンライン出席者の通信状況(出席者全員の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等の適時的確な意見表明が互いにできる状態)が正常であることの確認と ZOOM 利用のお願いなどを再確認して、一般社団法人日本鉱物科学会 2024 年度定時総会の開会を宣言した。
- (3) 定足数の確認：中野議長により、定足数の確認および出席者数の確認が行われ、下記の定足数に足る社員の出席があったので、中野議長は議事に入った。

議決権のある社員数：846 名

この議決権の総数：859 個（定足数 86 人）

出席社員数：132 名

（内訳）本人出席 106 人（会場 98 人+ZOOM 出席 8 人）

+書面 26 人[代理人行使（20 人）+書面議決権行使（6 人）]

この議決権の総数: 132 個

- (4) 物故会員（小倉 義雄 永年会員, 阿部 宏 永年会員, 阿部 利弥 シニア会員）への黙祷がなされた。

報告事項

I. 2024 年度（一般社団法人第 9 期 2024 年 8 月 1 日～2025 年 7 月 31 日）事業報告

井上 徹 会長 挨拶

井上徹会長より、挨拶と共に 2024 年度一般社団法人日本鉱物科学会の活動について次の通り概要の報告が行われた。

2024 年度は一般社団法人日本鉱物科学会として第 9 期になります。

私が会長を拝命して 1 年、また新たな事務局による運営体制に移行してから 2 年が経過しました。まずは、前会長であり今回の年会実行委員長でもある大和田先生に、2 年前の新運営体制構築に多大なご尽力をいただいたことに、心より感謝申し上げます。おかげさまで、新事務局職員の小宮山印刷・猪狩さんをはじめ、各幹事、委員長、そして理事の皆さまの献身的なご貢献のもと、新体制も軌道に乗ってきたと感じております。

もっとも、まだ会員の皆さまにはご不便やご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、皆さまからいただくご意見を反映しつつ、より良い学会運営に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、近年は多くの学会で会員数の減少が話題となっていますが、日本鉱物科学会では 2022 年から会員数が増加に転じ、特に若い世代の入会が顕著です。昨年度の名古屋大学での年会でも、ポスター会場や懇親会会場でその活気を肌で感じ、大変嬉しく思いました。日本鉱物科学会には大きな可能性があると感じています。

本年の年会の全投稿数は 230 件で、昨年度（240 件）とほぼ同数でした。（ちなみに一昨年のお阪開催は 182 件でした。）一般的に、地方都市開催では投稿数や参加者数が大都市開催に比べて減少しがちですが、今年の年会はそのハンディを跳ね返す勢いです。活発な人的交流によって、日本鉱物科学会がさらに盛り上がることを期待しています。

年会の開催は、現地 LOC（Local Organizing Committee）および行事委員の多大なご尽力、言い換えればご負担のうえに成り立っています。今年の年会は、LOC の負担軽減を考慮し、ハイブリッド形式での開催は見送りました。一方で、ある会員の方から「オンラインによる口頭発表と質疑応答の継続に役立ててほしい」との大型寄付をいただきました。来年度以降は、LOC の負担を軽減できる体制を整え、ハイブリッド形式での開催を努力目標としてまいります。

また、会計幹事のご尽力により、財政の健全化も着実に進んでいます。今後財政に余裕が出てきた暁には、真っ先に若手育成に向けた新たな取り組みを行っていきたいと考えています。学会活動の将来を担う人材育成のため、引き続き皆さまからのご寄付、ご支援をお願い申し上げます。

さらに広報委員会の活動も活発で、学会ホームページの充実や SNS による情報発信も行っています。「ヒスイ」が日本の国石であることは広く知られるようになり、マスコミに取り上げられる機会も増えています。このような状況を踏まえ、2016 年 9 月の国石選定の際に惜しくも選ばれなかった 4 つの石（花崗岩、輝安鉱、自然金、水晶）を、日本の準国石として選定することを、2025 年 5 月の理事会で決定しました。今後はこれら準国石の普及にも努め、鉱物科学の魅力を広く発信していきたいと考えています。

引き続き会員の皆様の積極的な参加をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

次いで、2024 年度第 3 回定例理事会(2025 年 8 月 21 日開催)において 2024 年度事業報告として承認された下記個別事業報告について、会長が各業務を一任している各担当者から総会資料に基づき報告説明がなされた（総会資料参照）。

1. 和文誌（岩石鉱物科学），英文誌（Journal of Mineralogical and Petrological Sciences），その他の電子版による発行事業
 - (1) 和文誌（岩石鉱物科学）編集報告（興野和文誌編集委員長）
 - (2) 英文誌（JMPS）編集報告（M. Satish-Kumar 英文誌編集幹事・理事）
2. 総会，講演会，研究部会，その他学術に関する集会及び行事の開催事業
 - (1) 行事報告・年会報告（瀬戸行事委員長・理事）
 - (2) 広報報告（斉藤広報委員長）
 - (3) Elements 報告（井上会長）
3. 研究の奨励及び業績の表彰（磯部庶務幹事・理事）
 - (1) 2024 年度日本鉱物科学会賞表彰
 - (2) 渡邊萬次郎賞表彰
 - (3) 2024 年度日本鉱物科学会論文賞表彰
 - (4) 2024 年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰
 - (5) 2024 年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰
 - (6) 櫻井賞表彰
 - (7) 2024 年度 JMPS 学生論文賞受賞論文表彰
 - (8) 2024 年年会研究発表優秀賞表彰
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業
 - (1) 庶務報告（安東庶務幹事・理事）
 - (2) 将来企画委員会報告（中村将来企画委員会委員長）
 - (3) JpGU 学会選出プログラム委員報告（西原委員長）
 - (4) 学術会議・IMA 小委員会報告（土屋学術会議連携会員）
 - (5) 博物館委員会報告（坂野委員長）
 - (6) JpGU 連絡担当報告（阿部連絡担当委員）
 - (7) 会員報告（阿部会員幹事）
 - (8) 会長報告（井上会長）
 1. 準国石の選定について
 2. 事務局の整理及び移転について
 3. 渡邊萬次郎賞の検討について
 4. 学術会議の問題に関して
 5. 寄付の受け入れに関するガイドラインの制定について（富岡会計幹事・井上会長）

II. 2025 年度（一般社団法人第 10 期）事業計画書及び収支予算などの件

1. 井上会長により，2024 年度第 3 回定例理事会（2025 年 8 月 21 日開催）において承認された 2025 年度事業計画が紹介された。

編集事業：岩石鉱物科学，Journal of Mineralogical and Petrological Sciences の発行

行事事業：2026 年年会（東京大学）の開催と 2025 年度定時社員

総会の開催，一般普及講演，各賞の表彰事業

その他本会の目的を達成するために必要な事業

また，井上会長から，「この１年間，新執行部，理事，幹事により，学会事業の見直しを進め，新事務局と役員業務の円滑化を進めてまいりました．第１０期では，執行部，理事，幹事によりさらなる学会事業の見直しを進め，学術活動に専念できる体制を固め，会員のみならず，社会にも貢献する体制を拡充して参りたい．」との報告があった．

2. 富岡会計幹事により，同じく第３回定例理事会にて承認された 2025 年度収支予算書について定時総会資料に基づいて紹介された．

その他

その他の報告は無かった．

決議事項

I. 第1号議案 2024年度（一般社団法人第9期）事業報告，決算承認の件

（井上会長 説明：富岡会計幹事，監査報告：永井監事）

1. 富岡会計幹事から，2024年度（一般社団法人第9期）貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）及びこれらの財務諸表に対する注記，附属証明書について，配布資料に基づいて説明がなされた。
2. 永井監事から，総会招集通知の監査報告書に記載の通り，会計，事業，理事の業務に関し，いずれも適正に執行されていることが確認された旨，監査報告書が読み上げられ報告された。
3. 議長により，これらについて諮ったところ，反対，保留はなく社員の賛成多数をもって承認可決された。

閉会

以上をもって、インターネット会議システム（ZOOM）を併用した本総会は終始異常無くすべての議事を終了し、議長は15時5分に閉会を宣した。

上記の議事の要領及び結果を明確にするため、この議事録を作成し、定款第18条第2項に規定されている総会に出席した正会員より選出された議事録署名人（1名以上）が次に記名、押印する。

令和7年9月 日

庶務幹事

安東 淳一

印

（配布時押印省略）